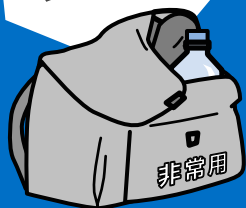


災害に備える

拡大版



東日本大震災から2年がたとうとしています。このページでは、今も市民や市によって続けられている支援活動と、災害時に必要な知識や技能が習得できる施設・講習を紹介。この機会に、災害について一度考えてみましょう。

甚大な被害をもたらした東日本大震災

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に大きな爪痕を残しました。地震の規模は日本の観測史上最大。札幌でも震度3を記録しました。

東日本大震災データ

- ・最大震度 7(宮城県栗原市など)
- ・マグニチュード(地震の規模) 9.0
- ・死者 15,880人 ・行方不明者 2,694人
- ・全半壊家屋数 397,918棟 ・札幌への避難者数 1,505人

※震度・マグニチュードは気象庁HPより。死者・行方不明者・全半壊家屋数は2月20日現在(警察庁資料。津波での被害含む)、札幌への避難者数は1月31日現在。

今なお続く、被災者支援活動

市民による被災者支援活動に関するお問い合わせは、市民活動促進担当 ☎211-2964

東日本大震災の影響により、震災前と生活環境が一変した方がたくさんいます。そうした方々に少しでも安心して暮らしてもらえるように、支援活動が続けられています。

市民による支援

支援活動の一部を紹介します

避難してきた子どもたちの学びや遊びを支援 みちのく kids



市内の大学生が中心となり、震災を機に札幌に移り住んだ子どもたちの勉強や遊び、仲間づくりのお手伝いをしています。

津波で失われた図書館を再建 北海道ブックシェアリング



全国から13,000冊以上の本や多くの支援金を集めるなど、岩手県陸前高田市での仮設図書館の開館に協力しました。

市による支援

被災者の健康相談や、道路・橋の整備などの支援を行うため、被災地に派遣した職員は延べ1,085人。寄付を募り、被災者支援団体に助成する活動も行っています。



医師・保健師による健康相談(写真は23年3月。仙台市の避難所)

3/11(月)~13(水)開催

被災地や支援活動を応援する催し



市民による被災者支援活動の紹介や、被災地の障がい者施設で作られた製品の販売を行います。募金も受け付けます。

会場 駅前通地下歩行空間

多くの市民が感じている防災の大切さ。しかし備えは不十分

昨年(2022年)の12月に行った市民へのアンケートでは、避難方法・場所を確認している市民が40%を超えていたものの、何も対策をしていない市民も25%以上いるという結果でした。防災の必要性を認識しながら、行動につなげられない市民が依然として多いことが分かります。

大切なのは、「意識」で終わらせず、「行動」に移すこと

[家庭で行っている災害への備え]

・調査期間 昨年12/3~28
・回答数 5,025通(複数回答)

